

競技注意事項

1、競技規則について

本大会は、2016年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則ならびに本大会申し合わせ事項により実施する。

2、ウォーミングアップについて

- (1) 練習は、雨天走路及び競技場北側にあるウォームアップ用走路を各自使用すること。ウォームアップ用走路の使用に関しては別紙参照のこと。また、練習場は混み合う可能性があるため、練習の際は怪我・事故等のない様に細心の注意を払うこと。主催者は一切責任を負わない。
- (2) 投擲練習、跳躍練習は競技開始前に各ピットで競技役員の指示により行う。

3、招集について

- (1) 招集所は、第1ゲート（100mスタート側）付近のゲートに設ける。
- (2) 各種目の招集開始時刻及び招集完了時刻は、プログラムの競技日程に記載してある。
- (3) 2種目以上を同時刻に兼ねて出場する場合には、他種目同時出場届（招集所に用意）に記入して招集所に提出すること。
- (4) 不出場届は**招集開始時刻まで**に招集所（競技者係主任）に提出すること。また、リレー競技はオーダーの変更の有無にかかわらず、その都度オーダー用紙（競技者係に用意）に1チームにつき1部記入して、**招集完了時刻1時間前まで**に招集所（競技者係主任）に提出すること。（リレー競走については170条を参照のこと。）オーダー提出前に棄権するチームは不出場届を**招集完了時刻1時間前まで**に提出すること。
リレー競技の申込のときのチーム編成は原則として6人だが、どのラウンドにおいてもその競技会のリレーまたは他の種目に申し込んでいる競技者であれば出場することができる。但し、どのラウンドにおいても出場するメンバーのうち少なくとも2人はリレーに申し込んだ競技者でなければならない。最初のラウンドに出場した競技者は、その後のラウンドを通して、2人以内に限り、他の競技者と交代することができる。なお、同じ大学内のチーム間の選手の交代は認めない。（第170条10の参照のこと。）
- (5) 招集完了時刻に少しでも遅れると、当該種目を棄権したものとして処理するので十分注意すること。

4、棄権について

- (1) 競技者の棄権は、**原則として代表者会議で受け付けたもののみ**とする。
- (2) 当日やむなく棄権する場合には、不出場届（招集所に用意）を当該校監督署名捺印の上、招集所（競技者係）に提出すること。その届け出た種目に限り棄権を認める。また、リレー競技の棄権については、招集完了時刻までに不出場届（招集所に用意）を招集所（競技者係主任）に提出すること。オーダー提出前に棄権するチームは不出場届を招集完了時刻1時間前までに提出すること。

5、ナンバーカードについて

- (1) ナンバーカードは、当連盟が配布したものをを使用すること。ただし、5000m、10000m、3000mSC、10000mWについては、主催者側で用意したオーダー番号のものを使用する。跳躍種目については、胸、背の一方だけでよい。
- (2) トラック競技に出場する競技者は、招集所にて配布する腰ナンバーカードをパンツの右横やや後方に取り付けること。レース終了後、腰ナンバーカードはフィニッシュ地点にて回収する。

6、番組編成及び、走路・競技順について

- (1) トラック競技予選のレーン順、フィールド競技の試技順は、プログラム記載の順による。
- (2) トラック競技の準決勝・決勝の組み合わせ及びレーン順は、主催者が公平に番組編成を行い、その結果を招集所の掲示版に掲示する。

7、スタートについて

- (1) スターターの合図は、英語 (On your marks、Set) で行う。
- (2) 不正スタートについては、混成競技を除いて不正スタートを行った場合、ただちに競技者は失格とする。但し不適切行為を行った場合、1回目は警告に留めるが、同一の競技者が2回目以降(別の競技でも)、同様な行為を行った場合それぞれ不正スタートを行ったものとしてあつかうので、注意すること。

8、フィールド競技について

- (1) フィールド競技における持ち時間は各種目1分とする。
- (2) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は、下記の通りとする。

| 種目 | | 練習 | 1 | 2 | 3 | 4 |
|-----|---|------|------|------|------|------|
| 走高跳 | 男 | 1m70 | 1m75 | 1m80 | 1m85 | 1m90 |
| | 女 | 1m45 | 1m50 | 1m55 | 1m60 | 1m65 |
| 棒高跳 | 男 | 3m70 | 3m80 | 3m90 | 4m00 | 4m00 |
| | 女 | 2m30 | 2m40 | 2m50 | 2m60 | 2m70 |

※走高跳は、以後最後の一人になるまで3cmきざみとする。

※棒高跳は、以後最後の一人になるまで10cmきざみとする。

- (3) 走高跳及び棒高跳において1位が2名以上出た場合、同成績の競技者全員が成功した次の高さでもう1回試技を行い、同成績者がいずれも成功するか失敗して決定に至らなかった場合は、走高跳は2cm、棒高跳は5cmバーをそれぞれ上げ下げして試技するものとする。(第181条9を参照のこと。)
- (4) 三段跳において、踏切板から砂場の近い方の端までの距離を男子は12m、女子は9mとり、競技を行う。ただし、競技者のレベルに合わせて審判長が判断し、男女ともに砂場までの距離を変更する場合がある。
- (5) エントリー数によって、ダブルピットで行う可能性がある。

9、混成競技について

- (1) 招集は1日目、2日目の最初の競技開始時刻の30分前に招集所にて完了する。

(2) 各日程において2種目目以降の招集は、各スタート位置または試技場にて競技開始20分前に完了する。以後は競技役員の指示に従うこと。

(3) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は、下記の通りとする。

| 種目 | 練習 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | | |
|-----|----|------|------|------|------|------|------|------|------|-----------|
| 走高跳 | 男 | 1m45 | 1m50 | 1m55 | 1m60 | 1m65 | 1m70 | 1m75 | 1m80 | 以後3cmきざみ |
| | 女 | 1m15 | 1m20 | 1m25 | 1m30 | 1m35 | 1m40 | 1m45 | 1m50 | 以後3cmきざみ |
| 棒高跳 | | 2m60 | 2m70 | 2m80 | 2m90 | 3m00 | 3m10 | 3m20 | 3m30 | 以後10cmきざみ |

(4) 混成競技はダブルピットで行う。

10、競技用器具について

- (1) 競技用器具は、競技場備え付けのものを使用し、個人の器具を持ち込んで서는ならない。ただし、投擲物及び棒高跳用ポールに限り、個人のものを使用することができる。投擲物については競技開始1時間前に競技役員の検定を受けること。
- (2) 競技場は全天候舗装であるので、スパイクのピンは9mm以下のものを使用すること。ただし、走高跳・やり投では12mm以下のものを使用すること。

11、抗議について（競技規定第146条参照）

競技進行中に起きた競技者の行為、または順位に関する抗議は、その競技者、または代理人より結果が正式発表（アナウンス）されてから30分以内（次のラウンドがある場合は15分以内）に、担当総務員を通して口頭で審判長になされなければならない。審判長の裁定に不服の場合は、上訴申立書と預託金1万円を添えて上訴審判員に上告することができる。この預託金は、抗議が受け入れられなかった場合は没収される。

12、表彰について

- (1) 各種目優勝者には優勝メダルを、3位までの入賞者には賞状を授与する。各種目、競技が終了してから30分後に表彰を行うので、該当するものは表彰係の指示に従うこと。
- (2) 表彰の際は、大学指定のジャージまたはTシャツを着用し、商標名の入った服装は避けること。
- (3) 最優秀選手賞については、今大会中における記録を参考として、大会会長・大会委員長・大会副委員長の3者により決定する。

13、その他

- (1) 競技者の付き添いは一切認めない。従って競技者以外は、トラックならびフィールド内に立ち入ることはできない。
- (2) 大会期間中、競技者は本部前の通行を禁止する。
- (3) ユニフォームは必ず各大学一種類のものに統一して、着用すること。
- (4) 閉会式は必ず出席すること。尚、部旗のある大学は持参すること。
- (5) 大会前日および大会1日目、2日目終了後、場所取りのためにシートやテントをスタンド等に置いていくことは一切認めない。
- (6) ゴミは各自持ち帰ること。
- (7) 競技場及び周辺施設の器具などを破損した場合はその大学から弁償代を徴収する。

(8) 開門・閉門時間は以下の通りとする。

| | (開門時間) | (閉門時間) |
|--------------------|--------|--------|
| 第1日目……………10月21日(金) | 7:30 | 18:00 |
| 第2日目……………10月22日(土) | 7:30 | 18:00 |
| 第3日目……………10月23日(日) | 7:30 | 16:00 |

(9) 集団応援の場所は指定された場所で行うこと。

(10) 今大会、競技会の円滑な運営の都合上、一部の長距離種目に制限時間を設ける。制限時間については、下記の通りとし、制限時間内に競技が終了できない場合は競技を終了させる。なお、制限時間での周回を最後の周回とする。

| 種目 | 制限時間 |
|----------|------|
| 男子5000m | 20分 |
| 男子10000m | 40分 |
| 女子5000m | 25分 |
| 女子10000m | 50分 |

(10) 主催者は競技中の発病・負傷に対しては応急処置以外の責任は負わない。ただし、平成28年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているため、この保険が適用される場合がある。

競技場平面図

